

# 慢性好酸球性肺炎における肺機能低下予測因子の同定に関する研究

## 1. 研究の対象

2000年1月～2015年9月までに慢性好酸球性肺炎と診断された患者さん

## 2. 研究目的・方法

慢性好酸球性肺炎は末梢気道から肺泡領域への強い好酸球浸潤を特徴とする原因不明の呼吸器疾患である。ステロイド治療への反応は良好とされるが、約半数はステロイド漸減中に再発を繰り返す難治例である。難治例では繰り返す再発により肺の線維化を生じ、呼吸不全に準じるほどの肺機能の低下を惹起する。これまで慢性好酸球性肺炎の治療に関して、前向き研究によって評価された治療法はなかったが、近年我々は3ヶ月間の短期ステロイド投与と6ヶ月間の長期ステロイド投与を前向き比較して、短期ステロイド投与の有用性を報告した。しかし、この研究においても50%を超える症例がステロイド漸減中に再発していた。そのため、これらの難治例では長期的な肺機能低下が懸念されるが、肺機能の低下を予測する因子は明らかになっていない。本研究は、慢性好酸球性肺炎における肺機能予測因子を明らかにします。

本研究は、2000年1月～2015年9月までに診断された慢性好酸球性肺炎と診断された患者の肺機能および臨床検査値を検討し、肺機能予測因子を検討します。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

臨床検査値および測定値等

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

静岡県磐田市大久保 512-3

磐田市立総合病院

研究責任者

呼吸器内科 妹川 史朗

電話 0538-38-5000 (代)